

1 乳房腫瘍の針生検材料による FCM が診
2 断に有用であったマントル細胞リンパ腫の一例
3

4 吉田ななみ 長津知嗣 綿引一成 麻生裕康 松林恵
5 子(千葉県がんセンター臨床検査部)
6

7 【はじめに】マントル細胞リンパ腫(以下 MCL)は
8 日本では非ホジキンリンパ腫の約 3%とまれな疾患
9 である。病変部位はリンパ節の他、節外病変部位と
10 して骨髄、消化管に浸潤する頻度が高い。今回われ
11 われは乳房腫瘍の針生検材料にて FCM による細胞解
12 析を実施し、その解析結果が診断に有用であった
13 MCL の一例を経験したので報告する。

14 【症例】71 歳女性。右頸部、右乳房腫瘍を自覚し近
15 医受診。エコーにて右頸部に多発リンパ節腫大あり、
16 右乳房腫瘍(径約 10 cm)の穿刺吸引細胞診(FNA)
17 にて悪性リンパ腫が疑われ、精査・加療目的で当セ
18 ンター受診。右乳房腫瘍の針生検が実施された。

19 【細胞所見および検査結果】塗抹標本上は中型~や
20 や大型で N/C 比が高く、核に切れ込みを有するリン
21 パ球様細胞が認められた。FCM では CD20, CD5/19,
22 鎖陽性, CD10, CD23, CD3, 鎖陰性であり、免疫
23 組織化学染色(IHC)では CD20, CD79a, CD5, bcl-2
24 陽性, CD10, CD3 陰性、追加染色で cyclinD1 陽性と
25 なり組織学的にも MCL と診断された。G-band 分染法
26 では正常核型であった。なお、骨髄液中には FISH
27 法にて t(11;14)(q13;q32)を示唆する IgH-bcl1 融合
28 シグナルが 3.0%検出された。

29 【まとめ】MCL の節外病変部位として乳房は比較的
30 まれとされている。今回、乳房腫瘍の針生検材料で
31 細胞解析を実施し、IHC とほぼ一致する結果を得た。
32 さらに針生検は外科的生検より患者への侵襲度が低
33 く、FNA と比べて情報量が多いことから、針生検
34 材料による細胞解析は B-cell 腫瘍の確定診断の際
35 の迅速検査として今後活用される可能性があると思
36 えられた。また、針生検材料は弾性軟のため、FCM
37 測定における固形組織の前処理方法とは異なる点に
38 ついても合わせて報告する。

39 連絡先 043-264-5431(内線 3710)